

第10回府民会議後に提出された議題一覧

題名	分野	内容
河川・公園整備 (鴨川における樹木監理) について	河川環境	私は、45年間に亘り京都鴨川ライオンズクラブに在籍して鴨川(半木の道・鴨川東岸緑花の回廊・鴨川運動公園等)におけるしたれ桜の植樹と監理に携わった経緯から、植樹の監理は全てを京都府にお任せすること無く官民一体となって、地域地域で民間団体と一つ一つのチームを組み、その地域の樹木の監理を物心両面で行うことで、樹木への愛情が芽生え生き生きとした樹木に成長し、多くの市民や観光客を惹き付ける源になると思います。
自然生態系の保護・中洲管理	中洲管理	・京都市の真ん中を流れる鴨川は京都に無くてはならない観光資源です。 ・最近の中洲撤去後、鴨川に野鳥が居なくなりました。 ・四季を通じて鴨川を訪れる府民や内外の観光客が四季の野鳥を楽しんで観察する事が出来なくなりました。 ・中洲の監理を野鳥の居る鴨川に戻すよう今後議論していきたいと思います。
魅力の発信	魅力発信	・鴨川四季の日～夏～について〈鴨川綿涼〉と〈京の七夕〉と〈大文字〉を一体とした子供が楽しめるイベントづくりを議論してはと思います。
鴨川条例第4章 快適な利用の確保 に下記条項の追加 について	河川敷利 用・自然 生態系・ 河川環境	①ホタル捕獲の禁止 ②木のフンの放置の禁止 ③ゴルフ・野球の練習(素振り)の禁止 ④下水への排水規制(自動車整備工場等のオイル・処理槽無しでのイスボナー排水が垂れ流されている)の強化 他の法令ですべてに規制されている可能性もあるが上積・横出し条例として規制の強化が必要。
子供も大人も水遊び が出来る環境整備 について(上・ 中・下流域の特徴 に合わせた)	河川整備	①鴨川では柘野堰堤及び鞍馬川合流部 1KMほど上流の堰堤下、高野川・花園橋から山端橋にかけて(子供の楽園と一体)の水泳場の設置 ②御池大橋から五条大橋まで、高水敷から川面への穏やかな階段の設置 ③七条大橋から桂川合流点までの丸太等での川下り流路の設置 上・中・下流域の特徴にあった府民の憩いの場の提供。水遊びが出来れば水質の向上に府民の意識が高まり、愛着が大きくなる。川くだりは、昔、大阪から鳥羽大橋までは水運があったとのこと。
遊水池の確保	河川環境	植物園・府立大学敷地、柘野堰堤、宝が池公園、松ヶ崎浄水場に設置 ケリラ豪雨等の洪水の危険の軽減により、河川整備・高水敷の利用の自由度を広げることが出来る。植物園は逆勾配とならず自然の状態で高水敷まで増水した水を流し込むことが出来る。(植物園中央部、府立大学グランドを5Mほど削り込む)同時に敷地周辺1Mぐらいの圍庭を張り巡らせれば、約30万立方Mの貯水が可能。柘野堰堤を現在の高さの横のスリットを1M高さぐらいで残したまま1～2M高くすれば、急激な水流の増加を上流に蓄積できると同時に環境負荷も少ない。(素人考えなので専門家の意見が必要)

<p>高水敷遊歩道の上流域への延長と野外活動拠点の設置について ①高野川：花園橋まで(将来は叡電八瀬駅) ②鴨川：柘野堰堤まで</p>	河川敷利用	<p>現在は中途半端なところで終わっている。高野川は、宝ヶ池公園(八瀬公園)との接続で相乗効果が期待できる。柘野堰堤は都市部との境界である。いずれもジョギングロードの終点として位置づけるのにふさわしい。今後5年の下流域の整備と一部入れ替える必要がある。下流域の右岸・中州整備は民家が無く効果が乏しい。</p>
音羽川からの川砂の供給について	中州管理	<p>音羽川の砂防ダム建設により、高野川・鴨川への砂の補給が大きく閉ざされた。川砂の補給は川をより自然に戻すということであり、川の浄化にとって、また生物の繁殖にとって必要である。周期的に川砂を流すことを検討すべきである。</p>
<p>三条大橋、四条大橋間の高水敷遊歩道に夏場茶店を数件設けることについて</p>	河川敷利用	<p>夏場、三条から四条の間には木陰が無く屋間の憩いの場としては利用がしづらい。 かき氷、わらびもち等の販売と日陰の提供をすれば利用者は増え、利益の一部は鴨川美化に供出できる。</p>
1) 案内板の設置について	河川敷利用	<p>掲示板を3分割して、条例の禁止項目、地域の魅力・地図、水のみ場・トイレの場所を表示。</p>
<p>四条から三条の間において中州を1箇所設置することについて</p>	中州管理	<p>中州の撤去で小石の河川が美しくなったが、物足りなさがある。秋のススキや萩の鑑賞、また現在鴨が遊歩道に出てきて休んでおり保護が出来ていない。</p>

植栽・並木の整備について	河川環境	鴨川の誇れるポイントは、集約すれば清い川面と美しい並木である。老木の保全代替、新しい並木の育成が必須である。中でもサクラを重視したい。（前回は議論が進まなかったので）
文化的景観の展開について	河川環境	人工景観について話し合いたい。鴨川は大都市人工河川である。水、樹木、建造物（周辺の建物、橋を含む）遠景の山々をあわせて府市の各条例を勘案しつつ長期的観点から、今から何をすべきかを話し合いたい。（一部でも自然公園指定、ひいては世界遺産を目指したい）
鴨川研究の発展指向について	魅力発信	鴨川は子どもからおとなまでの学習・研究対象となる。自然はもちろん歴史、文化、芸術あらゆる面から生涯学習・研究を深める必要がある。そのための組織（研究センター等）、施設（展示コーナー等の）設置について話し合いたい。
治水・災害対策について	河川環境	万が一の災害に備えて、施設面からの現状と今後、府市民の平常からの心構え、対策について語りたい。

①鴨川の10年、50年、100年先のあるべき姿について。	魅力発信	現在の鴨川の置かれている環境、状況を認識しつつも、これから先、どのような社会、都市形態になっているのかわかりませんが、鴨川がどのような姿であるのがベストかベターか意見交換を行いたい。
②府民の鴨川活用について。	河川敷利用	河川の活用について、①とも関連はあるが、府民が求める鴨川の活性化、利用を、具体的例を考えながら検討し、意見交換を行いたい。
鴨川を生かす幹である上流域の今後について。	河川環境	府民の多くは普段あまり見る事、意識する事のない、上流域から源流にいたるまでの鴨川の現状をと今後どういう姿が望ましいか？（例えば：鴨川ウォーキング小道、自然を満喫できる開発など）意見交換を行いたい。
鴨川の水質向上について。	河川環境	鴨川が魚、虫、鳥、動物、人間が楽しく親しめる河川である為には水質は大きな課題であると思います。この水質を向上させるためには何を行わなければならないか、法的な視点からも意見交換を行いたい。
鴨川と生活文化発信について。	魅力発信	794年に桓武天皇が平安遷都を行った理由の一つに鴨川が有った事とされています。その後も鴨は京都の文化創造に多大な影響を与えていますが、その庶民と鴨川の関わり、文化の情報発信について考えたい。
鴨川とエコロジーについて。	河川整備	北ヨーロッパを代表するデンマークの首都コペンハーゲンは、1961年から歩行者道路網を開発し、世界に先駆けエコロジー都市ですが、近年注目は自転車専用路開発です。京都も「京都議定書」のあるエコロジー都市を目指していますが、鴨川は京の中心を長得る、これを利用したエコサイクルロード開発等を議論したい。
鴨川と都市との調和開発整備について。	河川整備	京都が造られた794年には、鴨川を中心とした庭園都市をコンセプトに開発されました。今後の河川整備についても100年後の京都の都で、どのような鴨川が位置付けにされるべきか、意見交換を行いたい。
他都市にはない河川、鴨川について	魅力発信	世界の京都と言われる街で、神社、仏閣は名所として最大級の認知があるが、鴨川はそのような認知がない。そのような中、府民に親しまれ他都市の河川とは異なる魅力を持つ鴨川に発展させる為、意見交換を行いたい。

散策ルートと各地区毎の名所、旧跡を巡るルートとの動線確保について。	河川敷利用	歴史を感じる事が出来る鴨川に。…古代から平安、江戸、現在と続く歴史ある風土を守りながら、観光客のさらなる誘致を図る。 ・三条・四条を中心とした幕末祭り、新撰組や勤王志士など歴史を体験出来る街づくり。 ・三条の高山彦九郎、四条の出雲の阿国、五条の牛若丸と弁慶のように、鴨川にかかる各々の橋のたもとには、シンボルのようなものを作り、より歴史を思い抱かせるような環境づくり。（スタンプラリーのような家族で楽しめるような企画）さらには、東山、北山地区への融合と誘導を図れるように意見交換を行いたい。
低水敷・水質	河川環境	川は水の滞留時間が短いので、有機物生産が緩やかでBOD達成率が良いようだ。BODの検査は不十分。『鴨川府民会議メンバーの意見』の中でも四人の方が「水質」についてふれておられる。現状が会議で明らかになった部分はあるが、さらに問題点を出し合うことも必要では。先日、鳥羽水環境保全センター（下水処理場）に見学に行き、下水（道）管は1時間20ミリの雨量にしか対応できていないので途中放流していると聞きました。ここでは微生物の働きで透明な水になって西高瀬川に放流されていました。東京農工大の研究チームによると、東京でも途中放流は同じで湾岸地帯や多摩川でノニルフェノールや女性ホルモン（エストロゲン）など環境ホルモンが高い濃度で検出されたとのことです。生物への影響が案じられます。平成36年までの「雨天時放流水質基準」改善を待ってよいのか。でもこんな時代だし…どこの海も環境基準達成率は悪いです。
低水敷・魚	河川環境	鴨川の魚について教えていただきたい。その中で水質のことなども見えるのでは。
低水敷・川の中のごみ	河川環境	5月下旬の大雨のあと25日、26日と賀茂川を散歩しながら、中州にひっかっている大量のごみには驚きます。なんとかしたい！京都市紫明通りのせせらぎ公園にこのような立看板がありました。【ごみの投棄は「処理及び清掃に関する法律25条」5年以下の懲役及び1000万円以下の罰金】私が所属するクラブでも立ち上げつつありますが皆でどう力を合わせる事が出来るのか。町内会連合会、老人会、学生さんたち、賀茂川漁業協働組合の方々と手をつなげないか。（ごみ以外樹木管理も同様）「花笠をかぶって踊る」ことは出来ませんが、童謡や唱歌をうたって楽しく出来ないか。
低水敷・低水敷側におられる生活者	ホームレス	「路上生活者」の方がいいのでは。せめて低水敷側におられるお二人（荒神橋と北山橋）の方にはなんとか移っていただかないと大雨のとき心配です。
鴨川堤に植える樹	河川環境	ソメイヨシノはやめてヤマザクラにしましょう。ソメイヨシノは「人間が作り出した品種で…こればかりになると生態系がおかしくなる」（佐野藤右衛門氏 京都新聞2010.4.11）日吉の森でもソメイヨシノは病気にもかかりやすいからヤマザクラがいいと言われました。国交省近畿地方整備局のグリーンマネジメントガイドラインにもソメイヨシノはないのだそうです。「近畿地方の自生種」のヤマザクラが寿命も長く効用も美しいということです。
草刈り時期（高水敷、堤、中州）	自然生態系	イネ科の花が咲く前に刈りとってほしい。この花粉にはげしくアレルギーを起こす人がとても多い。
鳥への餌やり	自然生態系	ドバトも多くなり、この方のアレルギーも案じられます。賀茂川にパンを持って餌やりを楽しむ人も多くなりました。先日アオサギがああ立派な嘴でパンを食べたので少し同情してしまいました。

発信方法	魅力発信	インターネットでの発信だけですむのでしょうか。興味のない人達には少しもひっかからないのでは。
環境保全区での景観	河川環境	納涼床だけ景観をきびしくなさせても環境保全区であるトタン板堀では片手落ちでは。雲ヶ畑もとても良い観光コースになっていますよ。春はクリンソウ、ヤマシャクヤクをみに行く人もふえています。この環境保全区は低水敷しかないのでしょうか。高水敷にあたる部分は民有地ということなのでしょうか。
「私の鴨川」 「私と鴨川」公募 事業で魅力ある鴨 川の発信を	魅力発信	山紫水明の代名詞になっている鴨川の魅力や、思い出を、広く全国、世界各地から公募することにより、鴨川魅力を再発見すると共に新たな気づき、新たな感動を共有することができる。鴨川魅力を探る鴨川コンペティションの創立
鴨川史の編纂と歴史探訪のフィールドワークについて	魅力発信	鴨川沿いの歴史と文化を探訪することによって、京都の歴史が鴨川の歴史と重なりあうことが理解できる。再度ワクワク、ドキドキする鴨川の歴史探訪により、京都の魅力を発信したい。